

	学校名	全校児童生徒数	学級数	学級増減	学級児童数 (単純平均)
勝山中・鶴橋中	東桃谷小	193	6	—	32.2
	勝山小	196	7	—	32.7
	北鶴橋小	102	6	—	17
	鶴橋小	139	6	—	23.2
	計	630	25	—	—
	A小	630	18	7学級減	35
	勝山中	183	6	—	30.5
	鶴橋中	88	3	—	29.3
	計	271	9	—	—
A中	271	9	増減なし	30.1	
大池中	御幸森小	108	6	—	18
	中川小	299	12	—	24.9
	舎利寺小	53	※2	—	—
	計	460	—	—	—
	B小	460	12	6+2学級減	38.3
大池中	194	6	—	—	
生野中	林寺小	107	6	—	17.8
	生野小	173	6	—	28.8
	西生野小	103	6	—	17.2
	舎利寺小	161	※6	—	—
	計	544	18+6	—	—
	C小	544	18	6学級減	30.2
生野中	304	9	—	—	
田島中	田島小	177	7	—	25.6
	生野南小	176	6	—	29.3
	計	353	13	—	—
	D小	353	12	1学級減	29.4
田島中	156	6	—	—	

生野区西部地域学校再編整備計画（案）

別冊資料 学校配置案の検討シミュレーションから作成
(児童生徒数は平成31年度に新学校が開校した場合の推計)

※舎利寺小学校の進学は、生野中75%、大池中25%と推計。

※舎利寺小8学級が廃校となるため2学級減と6学級減と単純計算。

※学年別の推計が出ていないため、学級児童数は単純平均。

学校統廃合白紙撤回

生野区で防災・まちづくりシンポジウム

「防災」から学校統廃合を考える「防災・まちづくりシンポジウム」が2月4日、生野区の「小中一貫」と学校統廃合を考えるつどい実行委員会主催で行われ、地域の町会長、防災リーダー、民生委員など80人が参加しました。

講師の中山徹・奈良女子大教授は、「人口減少を理由に全国的に小学校を減らしているが、狙いは公共施設を減らし、行政サービスを減らすこと。まちづくりを考えていくうえで小学校区は市民の日常的な暮らしの最も基本的な単位。防災・避難所としての小学校がなくなるのは深刻。日常的なコミュニティ活動、隣近所のつきあいが、過去の震災の例からも家屋倒壊からの救助につながっている。行政の財産は市民の財産で維持を。まちのことを真剣に考える人がどれだけいるかが決定的。」強調しました。

(シンポジウムの感想)

- 小学校が地域の核ということがよく判りました。
- 統廃合は即中止し、地域を守ることを最優先にすべきである。地域があって、住民が住んで、学校が存在するという考え方で進めるべきだ。
- 小学校区を崩すことは、まちを崩していくことにつながり、まちが崩壊してしまうと強く思いました。
- 小さな学校はつぶす必要はないです。
- 地域で話し合っていることに大変役に立つ話でした。
- 防災の基である小学校がなくなれば、その地域住民の防災計画が崩れ、不安感が増大すると思う。
- 今の区の計画を是非白紙撤回にしてください。

ニュース「大阪市教」2017年3月から